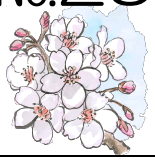
東光寺小学校学校運営協議会通信　No.25

平成31年３月22日

東光寺小学校学校運営協議会発行　　会長　奥住　方彦



開校４０周年に向けた校友会の皆様の活躍に感謝！

校長　高橋　大造

４０周年記念環境整備の一環として、校友会の皆様が中心となって活動してくださり、今まで手を付けることがなかった南門の花壇がよみがえりました。

正門を利用される方は、校庭の端の門である南門を通ることはあまりなく、気付かない方も多いかと思いますが、今までは枯れ草や枯れ枝の置き場になっていた南門脇の花壇が、写真のように見違える姿になったのです。

校友会の皆様には、ご存知のように、今までも学校の環境緑化にご尽力いただいております。入学式に合わせて校門脇の花壇を整備していただき、登校してくる子供たちをすてきな花が迎えてくれています。

また、校庭の八重桜を塩漬けにしてくださり、入学式には本校独自のさくら茶を来賓の皆様にお出ししています。

菊作りにおいても、苗の植え付けのお手伝いから、水のやり方等を緑化協会の方と一緒に全校児童に教えてくださっています。子供たちのために力を尽くしてくださることで、学校の内外が一層輝き出しました。

なお、この花壇の整備には、気が付かれたご近所の方や、ひのっちパートナーの方、造園業をしていらっしゃる卒業生の奥住さん他、多くの方のご協力があります。心から感謝申し上げます。

これからもよろしくお願いいたします。

整備前の花壇

整備後の花壇

≫≫≫ 東光寺小学校の思い出 ≪≪≪

学校運営協議会委員長
開校40周年記念事業運営委員会 副委員長　奥住　方彦

東光寺小学校開校40周年、本当におめでとうございます。私は平成13年度から３年間、ＰＴＡ会長を務めさせていただいたことがきっかけで、その後、学校評議員、コミュニティスクールの一員として東光寺小学校に関わらせていただいております。

私が生まれた頃、この地域は第一小の学区でしたが、その後、第三小、そして現在の東光寺小学区となりました。私が小学校入学の頃は三小学区でしたが、当時、当然東光寺小はなく、一面田んぼでした。ちょうど今の北門と南門をつなぐ多少蛇行した農道があり、通学路になっていました。

高校生の頃に工事が着工し、昭和54年、東光寺小が開校しました。学校建設のためには、地元地権者から広大な土地の提供を受けなければなりません。当時のことを父親から聞いたことがありますが、番号の付いた校名ではなく、この地域の地名「東光寺」の名を入れてほしいとの強い要望が土地提供者からあったようです。

開校当時は現在のように区画整理されておらず、学校の前には農地が広がっていました。正門は新坂下住宅側にあり、正門と北門を結ぶ敷地は地域の人たちの通路となっていました。誰でも自由に出入りできたわけです。平成６年には新町地区区画整理事業が始まり、開校20周年を過ぎた頃には新たな正門ができあがり、現在の姿になりました。

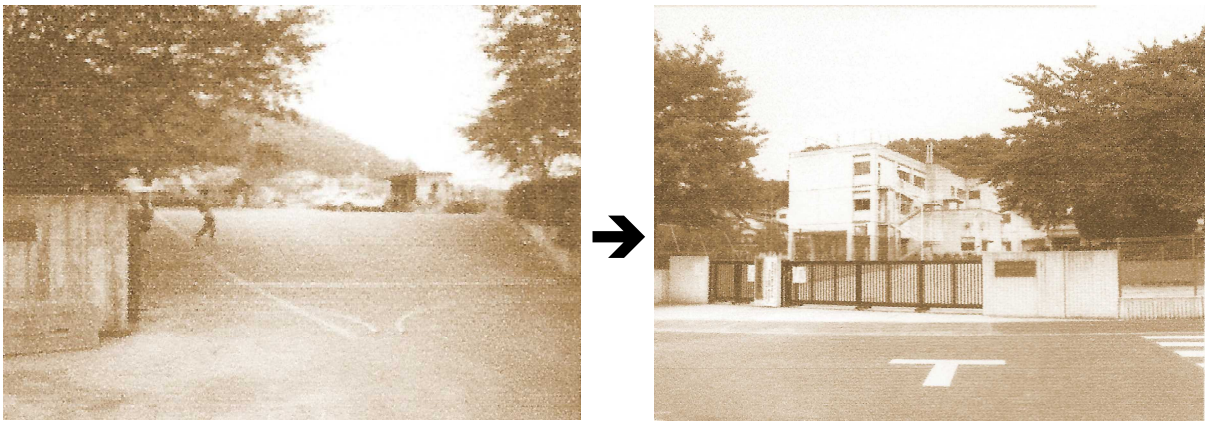
この40年間、東光寺小周辺は大きく変化しました。

- 　～10周年；学校前には農地が多くあり、自然が多く残っていた。
- 10～20周年；新町地区区画整理が始まり、田んぼが激減し、景観が大きく変わった。
- 20～30周年；現在の正門になり、より安全な通学路が確保され、住宅が増えた。
- 30～40周年；わずかに残されていた農地も宅地化され、昔の景観を思い出すことが困難になってきた。

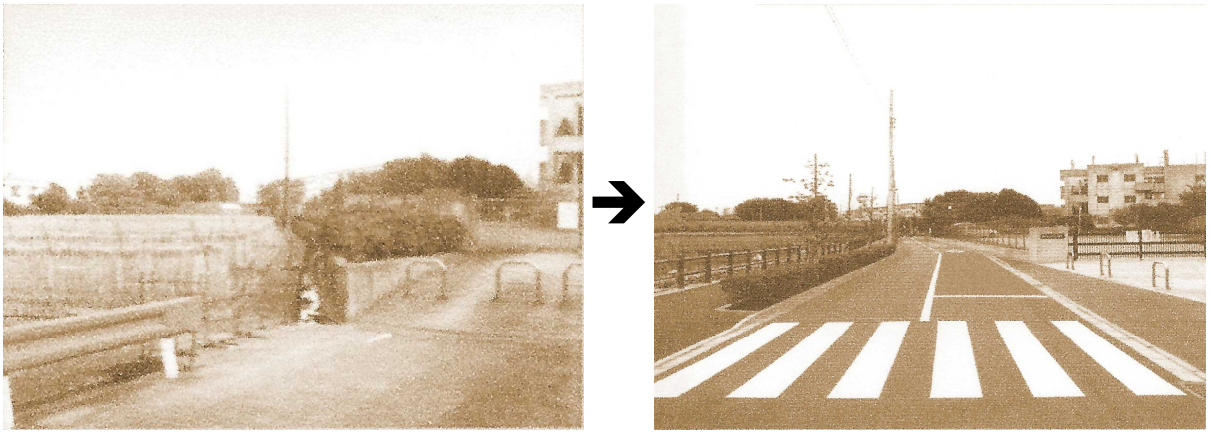
子供の教育も詰め込み教育、ゆとり教育、総合学習や英語教育と、その時代によって大きな変化をしています。学校というものは、やはりその地域の中心となる存在であり、そのことは昔も今も変わっていないと思います。

子供たちの健全育成のため、これからも東光寺小学校は地域に愛される学校として発展していかなければなりません。

この40周年を機に、これからも皆様のご支援、ご協力をお願いします。



正門の昔と今（正門の移転に伴い、桜の移植も行いました。）



北門の昔と今